

目標達成計画

作成日: 平成 30年 2月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36 25 27 39	入居者主体の生活を実現させるための支援を行いたい。そのためには、それぞれの入居者の能力、状態等のアセスメントを職員全体で一致させ、その上で、支援内容を統一して関わることが必要である。また、時間の経過とともに、根拠が不明確になっていきやすいため、対策を考える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 「人」としての尊厳を守れるよう支援する。 『気づきの力』のさらなる向上を図り、現状を的確に把握する。 それぞれの入居者のアセスメントを職員全体で共有し、本人像を一致させる。 共有したアセスメントに基づいて、統一した支援、根拠ある支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に各入居者のアセスメントシート、24時間シートの更新を全職員で取り組み、把握し理解する。 必要時はチェック表類の項目の見直しを行う。 職員間で情報の不足や違った解釈になっていないか、会議等を活用して、確認をしていく。 記録やチェック表の記入をどの職員が見てもわかりやすいものにしていく。 『気づきの力』のさらなる向上として、再度、身だしなみチェックに力を入れる。 	12 ヶ月
2	48 38	家事活動に参加してもらうために、入居者一人ひとりのできることや、できるための工夫をさらに考えていきたい。 個々の入居者に合わせた余暇活動を行うことで、コミュニケーションもとれ、新たな気づきにもつながるのではないかと。 入居者に達成感をもってもらえるようにしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの入居者に合わせた家事活動、余暇活動とその参加の方法を考え、工夫する。 生活の中での役割を持ち、日々の楽しみにつなげていく。 入居者同士のつながりも大切に支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に家事活動、余暇活動一覧表の更新を行ない、必要があれば、表記方法を見直す。 家事活動(掃除や整理整頓等)を余暇活動の一部と考える。形式に捉われず、少しの時間であっても、個々の入居者とコミュニケーションを取りながらできることを行っていく。あわせて、『入居者目線』の居室内の環境を整えていく。 職員間で1日や1週間の中で、活動したい内容を打ち合わせる。 	12 ヶ月
3	40	メニュー作りから食事の摂取量、食べ方や姿勢等、注意して支援しているが、もっと入居者が楽しめる食事の提供を行ってきたい。また、食事をおいしく安全に提供するための工夫や心配りをさらに高めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 入居者にとって、「食」が楽しみなものになるように工夫をする。 現在よりも、入居者の希望にそったメニュー作りを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> メニュー作りで写真やイラストを使用して、入居者が食べたいものや食材を選ぶ工夫をする。買い物も入居者と一緒に行く。 メニュー作りの中で、それにまつわるエピソードなどを聞くことで話題作りにつなげていく。 (視覚や嗅覚、味覚が低下してきている)入居者にわかりやすい見た目や形を工夫する。 	12 ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。